

第42回 中高校生の吃音のつどい(詩の朗読)

11月9日(日)、小学生9人、中学生4人、高校生6人、ご両親12人、スタッフ29人の計60名が参加。千代田区立千代田小学校ことばの教室をお借りしての開催も、今回で6回目。ご厚意ありがたいものです。まずは**体ほぐし**。私はNちゃんを担当しました。スタッフ事前学習会で体ほぐしを経験したものの、やっぱり難しい！Nちゃん細過ぎて折れちゃいそうだったので、「痛くない？大丈夫？」とかNちゃんに何度も確認してしまいました。でも気持ち良かったと言ってくれたので嬉しかった。やって良かったです。**詩の朗読**は、私は「生きる(谷川俊太郎)」の第一連を担当。これも体ほぐし同様、難しかった！発表の時も「これでいいのかなあ？」って自分の中で自問自答していました。でもやり終わった後になんだかすがすがしい気持ちになりました。満足できる表現はできなかったけれど、大きな声を出すことは(声が大きいから良いという訳ではないですが)、気持ちいいなあと感じました。その後に中高校生の2人を担当し、最初みんなで読んでみました。が、2人とも読んでくれるのですが、蚊の鳴くような声で聞こえるのがやっど。学習会で学んだ「他人の体を押しながら声を出すこと」や「体育館の向こう側に声を届けるつもりで」や「詩の状況を思い浮かべながら動作をつけて言うてみる」とか、自分が出れる範囲で彼女達に教えました。最後は、最初と比べ2人の声が出ていたので、嬉しかったです。他の子達の発表もそれぞれ味があって、見ていてほのぼのした気持ちになりました。大勢の人達の前で自分の声を出して発表する。これだけでもすごいことですよね。「生きる」の詩を通じて何かを感じ取っていただければいいなって思います。(リーダー;保坂美帆、江口佑樹、田中宏昌)

K. O君(小5)

ぼくは、今回の言友会は途中からの参加だった。ぼくが行った時、詩の朗読をしていて、少しだけ練習してみんなの前で発表した。スタッフのお兄さんと一緒にした。楽しかった。

午後の話し合いでは、<吃音について何か聞きたいこと>を話し合った。ここでぼくは吃音についてたくさんのが分かった。例えば吃音の人は 100 人に 1 人>とされているのに、この<中高校生のつどい>にこんなに吃音の人が集まっている。これはすごいこと…などだ。もし吃音の人が 10 人いたとすると 1000 人の中の 10 人ということになる。この会では 1000 人の中の 10 人がここに集まって話しをしている…ということになる訳だ。吃音というだけで自信を無くしてはいけない。自信を持って暮らしていけばいい…ことも分かった。言友会はすごいいい会だ。これからも参加していきたい。

N. Oさん(高1)

今回の午前の部は、今までとは違った趣向でなかなか新鮮でした。発声練習に始まり、「さんぼ」など童謡の合唱、詩の朗読、そして体ほぐしのマッサージ。私はこの体ほぐしのマッサージの気持ち良さに、一種の感動を覚えました。これまでとはかがマッサージにお金を払う人の気が知れませんでした。今はそのような方の気持ちが分かるような気がします。本当に気持ち良かった。今となつてはその感じを完璧に思い出すことなどできませんが、とにかく気持ち良かったの一言です。**全身の力を抜き、自分を全くの無防備状態にすること**。あの感覚はもはや天国の域に達していたと思います。この人間社会において、全くの無防備になるということはそのまま大きな危険につながります。危ないことを考えている人(自分も含め)の絶えないこのご時世です。私達は(たぶん)常に周りを警戒し続けなくてはなりません。心の面でもそれは同じです。気のおけない関係というのももちろんありますが、それ以外はお互いにお互いを警戒し合いながら毎日を送っています(これも、たぶん)。それは仕方ないことではないかと私は思います。でもたまたま

は、警戒を解き無防備になるということも大事なのではないかとも思います。その大事なリラックスタイムを今回のつどいで得ることができ、私は幸せでした。

H. Tさん（小6男子のお母さん）

始めは、知っている人が全然いない所に一人で参加するのでとても緊張していたのですが、最後には会が終わってしまうのが名残惜しいぐらいでした。（子供さんがどもりで悩むようになったのは）お母さんのせいじゃないですよ、と言って下さったスタッフの方にも、本当に感謝しています。（しかも、とっても綺麗なお嬢さんでしたね！！あんまりかわいいのでじろじろ見つめてしまいました。）

自分や、子供のことを受け入れて、前向きに生きていくためには、やっぱり共感し合える人達と話をしたり一緒に時間を過ごしたりすることがとても大切なんだということが実感できた一日でした。息子にもいろいろと昨日のことを話していたら、「次回のつどいには参加してみようかな」と言っていました。とても緊張したのですが、とっても楽しかったです。息子だけでなく、夫も引っ張って行きたいです！！

R. Kさん（高3女子のお母さん）

今回も素敵なつどいをありがとうございました。詩の朗読がメインと聞き躊躇した娘を説き伏せ、参加して良かったです。どうなるかと心配した母ですが、朗読をする娘の姿を見て不覚にも嗚咽を洩らしまして・・戻って来た娘が驚いていました。「なんで泣いているの？」知ってるくせに。

つどいに参加するようになって6年目になりました。ことばの教室が卒業となり、途方に暮れる娘と初参加の中学一年生から、今、高校三年生となりまして、もう感激することなど無いものかと思いましたが。やはりたくさんの人々の前で喋る姿は、親として感無量のものが入み上げました。詩の朗読を聞いていました。吃音児を育てる親は感激する場面を多く与えられている。何気無いひとこまは、私達に生きる活力を与えてくれる。普通の生活では当たり前に見過ごされることも、吃音児と同じ家庭で暮らす私達は、発見する喜びや感じる感性が研ぎ澄まされる。私達は選ばれた人間なんだと。だから自分の子供の成長だけでなく、他のお子さんの成長にも目が向き、そして私は涙が止まらなくなりました。

以前こんな会話がありました。娘が中学生頃、つどいの帰り。「吃音者って優秀な人多いね。」と私が切り出しました。言い換えや置き換えで頭脳が鍛錬され、優秀さが増したのかな？と思ったからです。でも娘の返した言葉は、こんな内容でした。「吃音と引き換えに優秀さはいらないと、きっと吃音者の皆が言うと思う。」だから今度、私がこのような内容の感想文を提出したと知ったら、「感激と引き換えに吃音は必要無い。」と言われそうですよね。そんなやり取りが嬉しい年頃となりました。

午後の部・話し合い「ジェット機」

今日の犬の散歩中のことです。我が家のグレート・ピレニーズは、の～んびり歩きます。考えを巡らすには最高のパートナーです。昨日の「つどい」を反芻しながら歩いていますと、私達の上空をジェット機が通過して行きました。音速より速い乗り物ですから、もちろん機体が先で後から音が付いて行きました。「なんだか昨日の話し合いのようだなあ。」とクスクス笑ってしまいました。

私達親の知りたいことはたくさんあります。吃音児にとって親に言われたくないことばってなんだろう。吃音は遺伝なのだろうか。母がきついから、吃音児になっちゃったの？もっと早く手を打っておけば良かった。ことばの教室が卒業になったら、どうしたらいいの？言い出したら止まりませんよね。

娘が子供達のグループの話し合いの内容を、いつも簡単に話してくれます。「生命力強いなあ。」と、毎回感じます。吃音って治らないよね。自己紹介を避けられないなら、吃つても言える方法は・・・将来の職業は・・・じっと前を見据えて、生きている子供達。まるでジェット機のように思いつきました。親はモタモタと後ろから爆音を轟かせ。私達の上空をジェット機が真っ直ぐ、南西の空に飛び去りました。

小俣 美佳子(府中市立府中第一小学校ことばの教室)

お世話になりました。とても良い経験をさせていただき、ありがとうございました。吃音について気軽に話すということが、今までは理屈でしか理解できていなかったんだなあ、改めて考えさせられました。お昼にお話した保護者の方が、「幼い頃から折に触れ、一緒に吃音について考え、話をしてきた経験の積み重ねが、子供にとって大きな意味があったと思う…」と話されていたことが、とても心に残りました。今までの自分の経験(吃音のある子との関わり)を思い返すと、こちらが勝手にモジモジ躊躇し続けて、大事な時間の積み重ねをして来れなかったなあと悔やまれますが、これからまた新たな前向きな気持ちで、子供達と向き合えるのが何より嬉しいです。

言友会スタッフの皆さんの、積極的な会の運営からも、新鮮なエネルギーをいただきました。教員は仕事柄、「どう円滑に集団活動を収めるか!？」という段取りが真っ先に浮かびがちなのですが…(笑) 中心的な若いスタッフさん達の、手作りで、凸凹したあたたかい感じが、また「つどい」の良さでもあるのだなあと思感しました。

PS. 「つどい」の後に、伊藤伸二さんの本(JSP「どもる君へ いま伝えたいこと」 解放出版社 定価 1260 円)や全難言協会報(「きこえとことば」第 83 号 はじめのいっほ 2008 卒業生に学ぶ P.15)の中の保坂美帆さんの体験談を読ませていただいたのです。「つどい」でご本人にお会いできたことで、体験談が伝えるメッセージも、私の心にいきいきと響きました。

戸辺 幸代(千葉県野田市立二川小学校ことばの教室)

今回の「からだことばのレッスン」では、多くのことを学ばせていただきました。スタッフ事前学習会でまず、講師の長田みどりさん(http://homepage3.nifty.com/karada/body_words/)の飾らないお人柄に惹かれ、「体ほぐしのレッスン」を受けている内に、力を抜く事が案外難しく、腕だけでもこんなにいろいろなパターンがあり、丁寧にほぐしてあげなければならないのかと思いました。当日、自分がやってもらった時、とてもほぐされてリラックスできることが解りその効果を実感しました。

「詩の朗読」では、声を相手に届けるために、動作を伴って、そばにいる人の肩を前に押すことによって力強い声が出るのが解りました。それと同時に、スタッフ学習会の時よりも、当日の朝の練習の方が声が出ていて、本番の方がさらに迫力のある声が出ていたので、練習の成果を実感しました。

今回印象深かったのは、大学生のリーダーがとても大人っぽく、そして頼りがいがあるなと感じたことでした。保護者の方も自分の連れてきた小学生や中学生もやがてリーダーとして活躍できるようになるんだなあと感じたことと思います。

翌日、早速吃音の子のことばの教室があったので、昨日の話をしたり、「どもる君へ」を読み合ったり、「体ほぐし」を実践しました。肩胛骨の下に手を入れて持ち上げるのはさすがにくすぐったいと言っていました。他はとても気持ちが良いそうで気に入ったようでした。野田市からは、担当者だけでしたが、5人で参加させていただきありがたかったです。今後ともよろしく願います。